

田上 時子のエッセイ

2018年ノーベル平和賞は

2018年のノーベル平和賞は紛争下の性暴力の根絶に向け、尽力したアフリカ中部コンゴ民主共和国の婦人科医デニ・ムクウェゲさんとイラクの少数民族ヤジディ教徒のナディア・ムラド・バセ・タハさんの2人に決まった。

ムクウェゲさんは戦争の道具として使われる性暴力に対する十分な対策をコンゴ政府や他国の政府が行っていないと批判。民兵から性暴力を受けた女性の治療に尽力している。

ムラドさんは2014年21歳の頃、過激派組織「イスラム国（IS）」に拉致され、IS戦闘員に人身取引（人身売買と同義語。政府や公的機関は人身取引 trafficking トラフィッキングを使う）されて、繰り返しレイプや暴行を受けたが、3ヵ月後に脱出。イラクからドイツに逃れ、避難民としての生活を続けながら、メディアの取材を受けて、自らの経験を語り、ISの性暴力を告発した。2015年12月に国連の安全保障理事会に出席して、人身取引や性暴力の実態を証言した。

2012年、JICA(独法 国際交流機関)からジェンダー専門員として派遣され、アフガニスタンの新人女性警察官たちにトルコで研修を行ったが、その時に、家父長制の強いイスラム社会では、性暴力を受けたことは女性や一族の恥であり、隠すべきだという考えが根深い、という理由で性暴力の被害者が告発しにくい、ということを知っていたので、ムラドさんの勇気と覚悟には敬意を感じていた。

ノーベル委員会は授与理由を「性暴力という戦争犯罪に焦点を絞り、性暴力をなくすよう努める重大な貢献をした」と説明した。長年続く紛争下での女性や子どもへの性暴力の実態に国際社会の目を向けさせ、根絶に向けた機運を高める狙いがあるという。また、女性の基本的人権と安全が守られない限り、より平和な世界は実現されないと指摘した。

女性への性暴力は紛争下でなくても、セクハラ、レイプ、わいせつ行為等など、どの国にもどの層にも起きている女性にとっての基本的人権の最大で最悪の侵害である。

平成元年以来、女性や子どもへの暴力根絶を活動目的にしてきたNPO法人女性と子どもへのエンパワメント関西にとっても励みになる今年のノーベル平和賞である。

日本のメディアの大半が今年のノーベル平和賞の候補者としてあげていた、アメリカのドナルド・トランプ大統領や韓国の文在寅大統領や北朝鮮の金正恩・朝鮮労働党委員長への授賞でなくてよかったと心の底から思う。

女性の基本的人権

暴力根絶

女性の安全

平和な世界の実現

